



部会だより

コロイドおよび界面化学部会 若手ワーキンググループの活動状況

はじめに

コロイドおよび界面化学部会若手ワーキンググループでは、本年度で6回目となる若手研究者や学生を対象とした合宿セミナー「未来のコロイドおよび界面化学を創る若手討論会」を開催しました。またWGの発案により開始した、コロイドおよび界面化学討論会における35歳以下の研究者、学生を対象とした「若手口頭講演賞」の表彰も本年度で4回目となりました。ここでは、これらについて紹介させていただきます。

若手討論会

「未来のコロイドおよび界面化学を創る若手討論会」は、第1回（東京）～第3回（鹿児島）まではコロイドおよび界面化学討論会に続く日程で1泊2日の合宿形式で行ってきましたが、第4回（旭川）からは討論会前日の半日形式に変更して運営してきました。お陰様で先日のつくばでの若手討論会では過去最多となる48名の参加をいただき、大変盛況でした。この場を借りてお礼申し上げます。

このセミナーは、同年代の産官学の若手研究者同士の知的交流を通じて、将来コロイド・界面化学分野を先導する若手研究者の育成と活性化を図ることを目的としています。今年度は、当部会の科学奨励賞・技術奨励賞の受賞者をはじめと



する注目の若手研究者による招待講演として、「異分野交流による“柔らかい”分子の構造・運動制御」中西和嘉先生（NIMS）、「環状高分子を利用した界面制御」山本卓也先生（北海道大学）、「洗浄における泡の機能～洗浄力とマイルド性の両立～」日下 梓先生（花王株式会社）について、基礎から最新の成果まで、わかりやすくお話しいただきました。

招待講演の後には、参加者全員が3つのグループに分かれて若手研究者が提供した研究トピックについて一緒に議論するグループ討論会を行いました。コロイドおよび界面化学部会は、微粒子、組織化膜、界面活性剤、固体表面など研究対象が多岐にわたるため、部会討論会でも5つまたは6つのセッションで発表が並行して行われます。参加する学生も、自分の研究分野に近い発表のみを聞くことが多くなってしまいがちですが、このグループ討論会は、共通点を多く持ちながらも普段触れることの少ない、コロイドの異分野の最新の研究に触れる機会を作ることを用意して企画されています。就職を控えた学生にとっては企業の若手研究者の発

表や、同世代の仲間との意見交換は大いに刺激となったようでした。また、部会討論会の直前に顔なじみが増えたことで、お互いに発表を聞きに行くなど、学会の楽しみを広げるのにも役立ったのではないかと考えています。

若手口頭講演賞

「若手口頭講演賞」では、若手ワーキンググループのメンバーを含む多くの先生方の協力によって、若手研究者の口頭講演を厳正に審査し、8件（うち学生2件）を表彰しています。受賞者とその研究概要は部会誌「Colloid & Interface Communication」に受賞年の次年度2号（本年度の受賞者は2019年2号～）より毎号2件ずつ1年間にわたって掲載しています。

おわりに

若手ワーキンググループでは、若手研究者をエンカレッジし、互いに刺激を与え、連帯感を育み、将来にわたって切磋琢磨していけるような友人と知り合う機会を提供できるよう今後も新しい取り組みを続けていきたいと考えています。今後も皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

〔若手ワーキンググループ
松原弘樹（九州大学）、大久保貴広（岡山大学）〕